

ぶと沈黙せねばならぬといふやうことになりま
すのは兩者の教育方針の異なりより起ることであり
ませう。

宗教の方では、中には随分舊弊のありますが、
一般に教義の事よりは社會の實際問題に觸れるこ
とに力めてゐるやうであります、然し宗教信仰な
くても出来るやうなことも宗教家がやるといふ
やうなことで實際問題を重んじ過ぎる半面には宗
教の精神思想の方が貧弱になり行く弊を生じてゐ
るやうであります云々。



遠甲二州旅行の談片

文學博士 加藤 玄智

八月九日御前崎の燈臺を一覽す、蓋し余が遠州
白羽村の講習會に出演せし途次を以てなり、白羽
村を距る約二里佐倉の郷に佐倉の池なる大池あ
り、其昔法然上人の師皇圓阿闍梨龍華三會の曉、
彌勒の出世を待つ甚永を慨し、此池に入水して
龍となれり、法然上人之を濟度せりと傳ふ、年々
秋の彼岸に近在の人々は勿論、遠方より參詣者來
り、數十個の赤飯の櫃を池中に投じて龍に供養す、
龍之を受けて赤飯を喫し盡して一旦沈みたる空櫃
數日の中に再び浮き上がると云ふ、土地の某氏余
に語りて曰く、井上圓了博士は之を單に物理的原
因のみより説明して例の Priest-craft theory を以
て解釋せられんとせり、高見如何と、余は未實地
に之を觀察せしに非ざるを以て兎角の斷定を下す
能はざるを憾みとす。

聞く、遠州金谷在の曹洞禪院高雄山石雲院は同

國森の洞雲院の開山恕仲和尚の孫弟子の開基なり、然るに愚俗、恕仲の女中と發音同一なるより、之を女中と解して、石雲院の開山忌に男女一夜堂裏に御籠をなし、此夜開山の法力、以て子無き女に懷孕の利益を蒙らしむると傳ふ、若し夫れ此事實と同國金谷の洞善禪刹の門前の俗稱道樂地藏(道陸神と習合せられしものか)の今尚現存する事實と、遠州可睡齋及び同じく森の洞雲院に大なる「すりこぎ」その寺の齋厨に備へ付けらるゝありて、子なき婦人之を削づりて持歸へり内服するときは忽子を得との傳説の存すること等、彼此考へ合はすときは、この方面の研究者には頗る興味ある事實ならんかと考ふ、蓋しアスタルテの神林に於ける Sacred prostitution の事實を聯想し來るを以てなり。パーカー E. H. Parker 氏嘗て余に一書を裁して這種俗信の支那に存せしや否やを論せし一條に曰く

“There is an upstairs room in the temple of the city-god in the old city of Canton where women go and sleep for a night when they want

children; but I strongly suppose that the living they worship on such occasions is the living *patris* of a fine priest.....”

八月廿三日駿河より甲州に赴く、富士山麓を御殿場より吉田に迂回して出でたり、吉田の有名なる火祭は廿六日の夜なりとて、吉田の町には既に焚火す可き燃料を各家の入口に用意す、以て轉同夜の壯觀を偲ばしむ、吉田の火祭に就ては人類學雜誌等にて既に論究せし人あり、今その絮説を省き、余の卑見は他日之を公にせんとす、唯白衣の富士講行者が六根清淨を稱へて金剛杖に登山するを見て、(ここにも佛教的感化(六根清淨は佛教語にして、身心の清淨を意味するは云ふ迄もなし)の深く山嶽崇拜と結び付きて、我國の中古殊に徳川時代に在りて富士講などの通俗的信仰の下に人心を暗々裏に感化し來りしもの多きを觀取するに難からざりしを今更ながらに感ぜざるを得ざりし。

* * * * *